

令和3年度

福井小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自ら学び、伝え合う力を育てる指導方法の工夫
- 家庭と連携した自主学習・読書の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	学校長	藤本 武	教頭	林 洋美
井利元 香織	低学年推進員	井利元 香織	中学年推進員	沖野 真実	高学年推進員
			栗田 佐知		

校長

藤本 武

【小中連携または中高連携における共通の取組】

授業の学習課題の工夫、ホワイトボードやタブレットを使った話し合い、振り返りの仕方について共通理解する。

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

他学年の教員が相互に授業参観・授業研究を行い、アドバイスし合い、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○漢字・計算など基本的な知識の定着に成果がある。 ○落ち着いた学習環境の中で課題に真面目に取り組むことができる。 ●学習に集中できない児童がいる。 ●長文を読み取る力が弱い。 ●学力の二極化傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ・既習の知識と関連付けたり他の学習に生かしたりできる。 ・豊富な語彙で書く・話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や板書の構造化、情報伝達方法の工夫、ユニバーサルデザインの視点などを生かし、分かる授業・魅力ある授業を行う。(時間の流れを視覚化。思考のつまずきに応じた助言・ヒント。考えを整理するためのツール・・・メモ・付箋・ホワイトボード・ノート・タブレットなどの活用) 	(特支) ○個に応じた学習スタイルを確立した結果、流れにのって学習できつつある。今後はタブレットを有効活用して、集中できる時間を長くすることが課題である。 (低学年) ○「めあて」「まとめ」「振り返り」の授業の流れを大切に、継続する。 (中学年) ○漢字・計算の小テストをこまめに行い、基礎的な知識・技能の定着を図る。 (高学年) ○用具、時間などの学習習慣を徹底する。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○方法や手順がはっきりと分かる学習では、見通しをもち意欲的に取り組む。 ○協働して学習することを好み、グループでの話し合いでは自分の意見が言えるようになりつつある。 ●問題の要点をつかむ、複数の情報の中から必要な情報を選ぶことが苦手な児童がいる。 ●自己決定に自信がなく、全体の場で自分の考えを積極的に発表できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の意図を捉えながら聞くことができる。 ・自分の考えの根拠を明らかにして、条件に沿って書くこと・話すことができる。 ・話し合い活動を通して、課題解決の方法を考えることができる。 ・自ら課題を見出し、解決に向けた方向性を考え、他者と協力し、必要な過程を計画・実行しながら解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で自分の考えを書く・話す時間を取り、伝えたいことを整理して話し合いをさせる。(ノート・タブレットの活用) ・児童の発言の内容に応じ、「なぜ」「それから」「たとえば」「もし～だったら」などの更なる発問を行い、児童の考えを整理し、深める。 ・学校での体験やニュースについて、テーマを設定し、自分の考えを書いたり話したりする機会を設ける。 	(特支) ○言葉の意味を根気強く教えた結果、少しずつ会話が成り立ってきた。 (低学年) ○タブレットを全体での話し合いに積極的に活用し、さらに思考力・表現力を深めていきたい。 (中学年) ○タブレットを活用し、得た情報を選び、友達に気付いたことや感想を伝え合うようにする。 (高学年) ○タブレットを活用し、意見を比べたり深めたりする。 ○一分間スピーチを活用し、発表と要点をつかむ練習を行う。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○体験学習を好み、積極的に活動する。</p> <p>○朝の学習(チャレンジタイム)や朝の読書の習慣が定着しており、与えられた課題には前向きに取り組む。</p> <p>●自分のめあてをはっきりさせたり、考えを客観的に捉えたりすることに課題がある。</p> <p>●自ら課題を見つけ、宿題以外の自主学習に取り組む児童が少ない。</p> <p>●難しい問題に粘り強く取り組むことができない児童、集中して学習するために支援が必要な児童がいる。</p> <p>●家庭学習の時間が十分に確保できていない。</p> <p>●家庭読書の時間が短い。</p> <p>●オンラインゲームなどスマホやタブレットで遊ぶ時間が長い。</p>	<p>・学習課題を主体的に解決しようとしたり、学習の見通しをイメージしたりしながら学習に取り組むことができる。</p> <p>・課題解決の経験を通して分かる楽しさやできる楽しさを体感し、学習に自信と意欲をもつことができる。</p> <p>・学習に粘り強く取り組むと共に、自らの活動を振り返り、成果と課題を今後の生活や学習につなげることができる。</p>	<p>・何を・なぜ・どのように学ぶのが児童に伝わるように授業や自主学習のめあてを提示する。</p> <p>・授業や自主学習で多様な意見や考えが生まれるような学習課題を設定する。</p> <p>・学年に応じて振り返りの仕方を工夫し、自らの活動を記録できるようにする。</p> <p>・難易度・分量など個人の習熟度に合わせた宿題や自主学習に取り組ませる。</p> <p>・「自主学習の手引き」を作成し、定期的に自主学習の見直しを教師と児童が共にすることで、意欲が持続できるようにする。</p> <p>・「家庭学習の手引き」を全校児童に配布し、家庭と連携しながら、ノーゲームデーを推進し、家庭読書の時間を確保する。</p>	<p>(特支)</p> <p>○1単位時間の流れや内容を説明することで、集中力や自主性が芽生えつつある。</p> <p>(低学年)</p> <p>○個々の振り返りを丁寧に行い、次時への意欲や見通しをもたせていく。</p> <p>○学年によって違いがあるが、ノーゲームデーの徹底や週末読書の習慣化に取り組んでいる。</p> <p>(中学年)</p> <p>○課題を明確にし、まとめ、振り返りという学習の流れを定着させる。</p> <p>○自主学習の内容を提案したり、友達のやり方を紹介したりして具体的に示す。</p> <p>(高学年)</p> <p>○ふり返りを行い、できた実感をもたせながら次時への学習意欲を高める。</p>		

令和3年度 学力向上ロードマップ

